

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地												
麻生外語観光&製菓専門学校		平成31年1月8日		瀧口 博俊		〒812-0016 福岡市博多区博多駅南1-14-17 (電話) 092-415-2293												
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地												
学校法人 麻生塾		昭和26年3月12日		麻生 健		〒820-0018 福岡県飯塚市芳雄町3-83 (電話) 0948-25-5999												
分野	認定課程名		認定学科名			専門士	高度専門士											
文化・教養	文化教養専門課程		海外ビジネス科			平成22年文部科学省 告示第31号	—											
学科の目的																		
英語、第2外国語、高度なITスキルを習得し、国内外を問わずグローバルなフィールドで活躍するビジネスパーソンを育成する																		
認定年月日																		
平成27年2月17日																		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技	時間										
2	年 昼間	1725	170	2145	40	0	0											
生徒総定員		生徒実員		留学生数(生徒実員の内)		専任教員数		兼任教員数		総教員数								
80人		114人		15人		4人		18人		22人								
学期制度	■前期:4月1日～8月31日 ■後期:9月1日～3月31日			成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 学期末試験、出席状況、授業態度 確認テスト等の総合評価												
長期休み	■夏季:8月8日～8月15日 ■冬季:12月25日～1月6日 ■春季:3月9日～4月4日			卒業・進級 条件		ア. 指定科目全ての修得 イ. 各学年の出席率90%以上 ウ. 卒業基準検定の取得 エ. 学生としてふさわしい生活態度												
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 ガイダンスの実施。 学科責任者との面談、三者面談の実施。			課外活動		■課外活動の種類 ボランティア活動 ■サークル活動: 有												
就職等の 状況※2	■主な就職先、業界等(令和元年度卒業生) 航空、旅行、ホテル、一般企業 等			主な学修成果 (資格・検定等) ※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和元年度卒業者に関する令和2年5月1日時点の情報)												
	■就職指導内容 希望する業界(企業)と個々の適正を見定め、指導、助言を与える。 ■卒業生数 54 人 ■就職希望者数 52 人 ■就職者数 52 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 96.3 % ■その他 (令和元 年度卒業者に関する 令和2年5月1日 時点の情報)					<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実用英語技能 検定試験2級</td> <td>③</td> <td>54人</td> <td>35人</td> </tr> <tr> <td>TOEIC L&R (IP) 500点以上</td> <td>③</td> <td>54人</td> <td>21人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	実用英語技能 検定試験2級	③	54人	35人	TOEIC L&R (IP) 500点以上
資格・検定名	種	受験者数	合格者数															
実用英語技能 検定試験2級	③	54人	35人															
TOEIC L&R (IP) 500点以上	③	54人	21人															
中途退学 の現状	■中途退学者 9名 令和元年5月1日において、在学者122名(平成31年4月1日入学者を含む) 令和2年3月31日において、在学者113名(令和2年3月31日卒業者を含む) ■中途退学的主要原因 進路変更による退学、経済的理由による学業継続困難等			■中退率 7.4 %		※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに 該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄												
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 東日本大震災により被災した進学が困難になった者を対象に入学金・校納金・寮費を卒業まで全額免除する。 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象																	
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																	
当該学科の ホームページ URL	http://www.asoiuku.ac.jp/aftc/subject/business/																	

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業連携により実践的かつ専門的な職業教育を実施することで人材養成課程の質の保証・向上を基本方針とする。授業科目開設においては、卒業生を対象とする「お客様アンケート」結果と教育課程編成委員との意見交換により、企業視点を軸としてグローバルなビジネスシーンにおいて必要とされる知識・技能の修得を目指す。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、専門性に関する動向や方向性等について意見交換等を通じて、より実践的な職業教育の質を確保することを目的とする。委員会は、次の事項を審議し、会議の結果を学科内でのカリキュラム会議に報告する。

- ①カリキュラムの企画・運営・評価に関する事項
- ②各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項
- ③教科書・教材の選定に関する事項
- ④その他教員としての資質能力の育成に必要な研修に関する事項

また、カリキュラム会議においては、教育課程委員会からの意見を参考に、学科の教育方針に則ったカリキュラムを検討し、策定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和2年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
三笥 和弘	公益財団法人 福岡観光コンベンションビューロー 事務局長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日(任期1年)	①
西 文孝	日本通運株式会社 九州営業部 課長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日(任期1年)	③
柳原 久一郎	株式会社ブライトウェイ	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日(任期1年)	③
和田 菜穂	麻生外語観光&製菓専門学校 副主任	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日(任期1年)	
石田 小雪	麻生外語観光&製菓専門学校 海外ビジネス科専任教員	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日(任期1年)	
村上 正雄	麻生外語観光&製菓専門学校 海外ビジネス科専任教員	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日(任期1年)	
稲崗 明子	麻生外語観光&製菓専門学校 海外ビジネス科専任教員	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日(任期1年)	
岡本 彩	麻生外語観光&製菓専門学校 海外ビジネス科専任教員	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日(任期1年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(6月、10月)

(開催日時(実績))

平成31年度 第1回 令和元年 6月12日 17:00～18:00

平成31年度 第2回 令和元年10月16日 16:30～17:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

グローバル社会においてサービス産業に携わる人材に求められるものは、高い語学力と業界知識や業界特有のスキルである。グローバル社会に対応できる人材育成に向けたカリキュラム構成やインターンシップなどの就業体験がいかに必要であるかについて意見をいただき、専門科目を増やした。英語のみならず第二外国語を駆使できる人材として社会に貢献できるよう、今後もより実践的なカリキュラム構築を目指し適宜見直しを行っていく。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係		
(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針 企業連携の下、専攻分野における実務に関する知識、技術および技能を教授し、就職に必要な実践的かつ専門的な能力を育成することを基本方針とする。グローバルなビジネスシーンにおいて即戦力となり得る人材育成のための、より実践的な職業教育の質の確保を目的とし、企業との密接な連携による最新の実務を的確に反映した教育を提供する。		
(2) 実習・演習等における企業等との連携内容 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記 企業と学校による教育委託契約書により、企業が選任した講師による演習を実施する。教育カリキュラムの設定並びに変更にあたっては企業と学校とで事前に協議を行い決定する。評価は筆記試験、レポート課題提出状況や内容を踏まえた総合評価とするが、評価基準については事前協議の上で設定する。 【授業科目】 マーケティング 【授業開設の目的】 グローバル社会におけるビジネスを理解し、トレンドの把握、顧客ニーズの解明、顧客価値を生み出すための経営哲学、戦略、仕組み、プロセスを学ぶことで、国際社会に対応する人材の育成を目指す 【授業科目】 プロジェクトベースドラーニング 【授業開設の目的】 学習を能動的なものとして規定し知識の暗記にみられる受動的なものを脱却するために、自ら課題を発見し解決していく 能力を醸成 【授業科目】 Intensive English Learning Program 【授業開設の目的】 語学力向上と共に海外での生活、文化を経験することで、広い視野と複眼的な価値観を醸成		
(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。		
科目名	科目概要	連携企業等
マーケティング	身近な分野の問題や改善点を捉えながら、外国人に接するエアラインやホテルの取り組みを参考に、マーケティング手法やツールを認識しながらワークショップを通して感覚を磨く。	株式会社ブライトウェイ
プロジェクトベースドラーニング	ホテルや航空会社における実務例をベースに、現在のトレンドを踏まえてグループワークでプロジェクトを立ち上げ、内容のプレゼンテーションを行う。	株式会社ブライトウェイ
Intensive English Learning Program	セブ島QQ Englishにおいて、マンツーマン授業など集中的な英語学習プログラムに参加し、語学力を向上させると共に、異文化理解を深め多様性を受け入れることができるようになる。	株式会社QQEnglish
3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係		
(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 教職員に対して、現在就いている職務又は将来就くことが予想される、職務の遂行に必要な知識・技能を修得させ、その遂行に必要な教職員の能力及び資質等の向上を図ることを目的として研修を受講させる。「教職員研修規程」に則り、専攻分野における実務に関する研修や、指導力の修得・向上のための研修を、教職員の業務経験や能力、担当する授業科目や授業以外の担当業務に応じて実施し、より高度な職務を遂行するために必要な知識を修得させる。年度の初めに研修計画を作成し、各教職員のスキルに適した研修が、計画的に受講できるようにする。また必要に応じ、年初の計画以外の研修受講も可能としている。		
(2) 研修等の実績		
① 専攻分野における実務に関する研修等 ・研修名「学生の将来を後押しする大学の取り組み～社会のニーズから考えるTOEIC Programの活用～」 (連携企業等：一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会) 期間：令和元年8月23日(金) 対象(石田 小雪、村上 正雄) 内容：TOEICを活用する大学による活用事例の発表とグローバル人材育成の取り組みについての共有		
② 指導力の修得・向上のための研修等 ・研修名「カウンセリング I 研修」(連携企業等：日本交流分析協会) 期間：平成31年4月24日(水) 対象(岡本 彩) 内容：カウンセリングにおける傾聴の技法、体験実習、個別面談の心得 ・研修名「3つのポリシーの策定・運用実践」(連携企業等：先端教育機構) 期間：令和1年9月11日(水)、25日(金) 対象(石田 小雪) 内容：3つのポリシーの策定・運用実践		

(3) 研修等の計画
 ① 専攻分野における実務に関する研修等
 ・研修名「オンライン授業で見えてきた課題と解決法」(連携企業等:チエル株式会社)
 期間:令和2年7月7日(火) 対象(岡本 彩)
 内容:オンライン授業実施に関するノウハウ、教育機関として乗り越えるべき課題共有
 ・研修名「オンラインでできる! TOEIC Tests & 公式eラーニング」
 期間:令和2年8月7日(金) 対象(石田 小雪)
 内容: TOEIC Listening & Reading IPテスト(オンライン)紹介、TOEIC Listening & Reading 公式eラーニング紹介、活用事例紹介

② 指導力の修得・向上のための研修等
 ・研修名「withコロナ時代に求められる教育指導体制とは」(連携企業等:株式会社進研アド)
 期間:令和2年7月29日(水) 対象(石田 小雪)
 内容:オンライン授業実施に関するノウハウ、教育機関として乗り越えるべき課題共有
 ・研修名「コーチング基礎」(連携企業等:組織デザイン・ラボ)
 期間:令和2年8月19日(水) 対象(岡本 彩)
 内容: コーチングのスタンス、効果、カウンセリングとの違いを知り、基本の対応の流れを体験

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針
 本校の基本方針に基づき、学校運営が適正におこなわれているかを企業関係者、保護者、地域住民、高校関係者等の参画を得て、包括的・客観的に判定することで、学校運営の課題・改善点・方策を見出し、学校として組織的・継続的な改善を図る。また、情報を公表することにより、開かれた学校づくりをおこなう。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像、他
(2) 学校運営	運営方針、事業計画、人事・給与規程、業務効率化、他
(3) 教育活動	業界の人材ニーズに沿った教育、実践的な職業教育、教職員の資質向上、他
(4) 学修成果	教育目的達成に向けた目標設定、事後の評価・検証、就職率、退学率、他
(5) 学生支援	修学支援、生活支援、進路支援、卒業生への支援、他
(6) 教育環境	教育設備・教具の管理・整備、安全対策、就職指導室・図書室の整備、他
(7) 学生の受入れ募集	APの明示、進路ニーズ把握、パンフレット・募集要項の内容、公正・適切な入試
(8) 財務	財政的基盤の確立、適切な予算編成・執行、会計監査、財務情報公開
(9) 法令等の遵守	専修学校設置基準の遵守、学内諸規程の整備・運用、自己点検・評価、他
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献、地域貢献、学生のボランティア活動の推奨、他
(11) 国際交流	留学生の受入れ、支援体制

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況
 海外ビジネス科では将来グローバル社会を生き抜く人材を輩出するために語学力向上だけでなく社会貢献の一環且つ自発的行動を促す目的として、自治体協力の下学生参画ボランティアを行っている。委員の方々から参加できるボランティア活動のバラエティを増やすことで学生のモチベーション向上につながるのではとの意見を頂戴したため、G20やラグビーワールドカップなど自治体のみならず国主導の国際イベントに参加する機会を探り参加可能なスケジュールが設定できるようカリキュラム策定の段階より調整を行うこととした。学生たちの社会貢献への関心が高まり、世界を構成する一員として公共性、自発性、先駆性を醸成できるよう適宜活動内容の見直しも実施する。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿 令和2年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
溝口 敦子	ホテル・リゾート科在校生 保護者	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	保護者
堀部 豊和	平成22年度 卒業生	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	卒業生
浦川 美代子	博多駅南1丁目1区 自治会長	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	地域住民

甲斐 直樹	福岡県立嘉穂東高等学校 校長	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	高校関係者
松坂 寛則	九州マレーシア協会 事務局長	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	企業等委員
鶴田 武彦	福岡県洋菓子協会 専務理事、事務局長	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	企業等委員
翁林 友子	ANA福岡空港株式会社 旅客サービス部 旅客サービス課 マネージャー	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	企業等委員
尾本 聰	ANA福岡空港株式会社 貨物・グランドサービス部 マネージャー	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	企業等委員
大屋 寿	株式会社 ニューオータニ九州 執行役員人事総務部長	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	企業等委員
柳原 久一郎	株式会社ブライトウェイ	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

<https://asojuku.ac.jp/about/disclosure/doc/aftc/2019/hyoka.pdf/>

公表時期: 令和元年7月22日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育方針・カリキュラム・就職指導状況など学校運営に関して、企業等や高校関係者・保護者などに広く情報を提供することで、学校運営の透明性を図るとともに、本校に対する理解を深めていただくことを目的とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	歴史、教育理念、教育目標、ASOの考え方、6つの特徴
(2)各学科等の教育	入学者受入れ方針、教育課程編成・実施方針、カリキュラム、国家資格・検定、就職情報
(3)教職員	教員一覧及び実務家教員科目
(4)キャリア教育・実践的職業教育	就職サポート、GCB教育、企業連携
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事、学園祭、部活動・サークル活動、学外ボランティア
(6)学生の生活支援	生活環境サポート、留学生学習・生活サポート、留学生就職サポート
(7)学生納付金・修学支援	学費とサポート、学習支援、各種支援制度
(8)学校の財務	事業報告書、貸借対照表、収支計算書、財産目録、監査報告書
(9)学校評価	自己点検・評価、学校関係者評価
(10)国際連携の状況	留学生入学案内、留学生募集分野、グローバル教育、海外での大学教育
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

<http://www.asojuu.ac.jp/aftc/>

授業科目等の概要

(文化教養専門課程 海外ビジネス科) 令和2年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			Speaking Skills I A	レベル別クラスで日常生活に必要な英会話力を養成する	1前	60	4	△	○		○		○	○	
○			Speaking Skills I B	レベル別クラスで日常生活に必要な英会話力を養成する。前期の学習を踏まえ、英会話力の向上を目指す	1後	45	3	△	○		○		○	○	
○			English Recitation	レベル別に英語の課題文を暗記し、人前で発表するプロセスの中で、語彙、フレーズの習得、表現力の向上を目指す	1後	20	1	△	○		○		○	○	
○			MOS演習 I A	「Microsoft Office Specialist Excel」、「Microsoft Office Specialist Power Point」の取得を目指す	1前	60	4	△	○		○			○	
○			MOS演習 I B	「Microsoft Office Specialist Excel」、「Microsoft Office Specialist Power Point」の取得を目指す	1後	45	3	△	○		○			○	
	○		英語検定 (TOEIC)対策 I A * A	レベル別クラスにてTOEICの高スコア取得のための対策授業を行う	1前	90	6	△	○		○		○		
	○		英語検定(2級)対策 I A * A	レベル別クラスにて「日本英語検定協会主催実用英語技能検定」の2級取得のための対策授業を行う	1前	90	6	△	○		○		○		
	○		英語検定(準2級)対策 I A * A	レベル別クラスにて「日本英語検定協会主催実用英語技能検定」の準2級取得のための対策授業を行う	1前	90	6	△	○		○		○		
	○		英語検定 (TOEIC)対策 I B * B	レベル別クラスにてTOEICの高スコア取得のための対策授業を行う	1後	60	4	△	○		○		○		
	○		英語検定(2級)対策 I B * B	レベル別クラスにて「日本英語検定協会主催実用英語技能検定」の2級取得のための対策授業を行う	1後	60	4	△	○		○		○		
	○		英語検定(準2級)対策 I B * B	レベル別クラスにて「日本英語検定協会主催実用英語技能検定」の準2級取得のための対策授業を行う	1後	60	4	△	○		○		○		
○			総合英語 I A	レベルごとに基礎英文法の習得、英語で「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」の基礎力を養成する	1前	60	4	△	○		○		○	○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			総合英語 I B	前期の学習内容をもとに、さらに高等な英文法の習得、読解、聴解、英会話の実践練習を行い、総合的な英語力を養成する	1後	45	3	△	○		○	○	○		
	○		韓国語 I A ※C	ハングル文字を学ぶことから始め、韓国語の基礎を学び、簡単な日常会話レベルの韓国語習得を目指す	1前	30	2	△	○		○			○	
	○		中国語 I A ※C	音調の学習から始め、中国語の基礎を学び、簡単な日常会話レベルの中国語習得を目指す	1前	30	2	△	○		○			○	
	○		韓国語 I B ※D	前期の学習を発展させ、より多くの日常会話フレーズを学び、より自然な韓国語会話の習得を目指す	1後	45	3	△	○		○			○	
	○		中国語 I B ※D	前期の学習を発展させ、より多くの日常会話フレーズを学び、より自然な中国語会話の習得を目指す	1後	45	3	△	○		○			○	
	○		インバウンド 概論 * E	21世紀の国際観光産業について、訪日外国人観光客をめぐる最近の動きや外国人から見た日本の観光資源についての概要を掴み、アメリカ系ホテルビジネスや外資系航空会社の日本戦略についても学ぶ。また、外国人から見た九州観光の魅力について調査し、プレゼンテーションを行う	1前	30	2	△	○		○			○	
	○		観光業界概論 * E	ホテル、トラベル、航空の各業界の現状ならびに各業界にどのような業務があるのかについて学ぶ	1後	20	1	△	○		○			○	
	○		サービス接遇 * E	「サービス接遇検定2級」の合格を目指すとともに、接客マナーについての知識を修得する	1前	60	4	○			○			○	
	○		商業簿記 I A * F	「日本商工会議所主催簿記能力検定」の3級合格へ向けての基礎段階として、簿記に関する基礎を学ぶ	1前	30	2	△	○		○			○	
	○		商業簿記 I B * F	「日本商工会議所主催簿記能力検定」の3級合格へ向けての基礎段階として、簿記に関する基礎を学ぶ	1後	20	1	△	○		○			○	
	○		貿易英語 A * F	貿易の流れを学びながら、貿易業務で使用される語彙、フレーズを習得する	1前	30	2	△	○		○			○	
	○		貿易英語 B * F	貿易の流れを学びながら、貿易業務で使用される語彙、フレーズを習得する	1後	30	2	△	○		○			○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			一般教養ⅠA	就職対策として一般教養の基礎知識を学ぶ	1前	30	2	○			○			○		
○			一般教養ⅠB	一般教養ⅠAに続き、就職対策として一般教養の基礎知識を学ぶ	1後	20	1	○			○				○	
○			GCBⅠ	様々な事例について話し合うことにより、「感謝と思いやり」を学ぶ	1前	15	1	○	△		○			○		
○			社会教養ⅠA	就職に対する基礎知識、履歴書作成、面接練習など、就職内定へ向けての実践授業	1前	15	1	△	○		○			○		
○			社会教養ⅠB	社会教養ⅠAに続き、就職に対する基礎知識、履歴書作成、面接練習など、就職内定へ向けての実践授業	1後	15	1	△	○		○			○		
○			Intensive English Learning Program	セブ島QQ Englishにおいて、マンツーマン授業など集中的な英語学習プログラムに参加し、語学力を向上させる	1後	150	10	△	○				○	○	○	○
		○	企業インターンシップ	旅行会社、ホテル、ブライダルなど、各業界にてインターンシップを体験することで、職種を理解し、自分に足りないものに気づく	1後	40	1			○			○	○	○	
○			Speaking SkillsⅡA	レベル別クラスでよりスムーズな日常英会話の運用ならびに多岐にわたる場面での英会話力の養成を目指す	2前	60	4	△	○		○			○	○	
○			Speaking SkillsⅡB	レベル別クラスでよりスムーズな日常英会話の運用ならびに多岐にわたる場面での英会話力の養成を目指す	2後	60	4	△	○		○			○	○	
○			Speech	2年間の英語学習の集大成として、各自の問題意識、関心のあるテーマについてリサーチを行った内容を英語でスピーチとして発表する	2前	60	4	△	○		○			○		
○			Graduation Report	スピーチに関連したテーマについて、英語での論文作成を行い、まとめた内容について英語でプレゼンテーションをする	2後	60	4	△	○		○			○		
○			MOS演習Ⅱ	1年次の学びを基に実践的、実際的な応用演習を総合的に行うとともに、「Microsoft Office Specialist Word」の取得を目指す	2前	60	4	△	○		○				○	
	○		英語検定対策 (TOEIC)ⅡA * G	レベル別クラスにてTOEICの高スコア取得のための対策授業を行う	2前	60	4	△	○		○			○		

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		英語検定対策(2級)ⅡA *G	レベル別クラスにて「日本英語検定協会主催実用英語技能検定」の2級取得のための対策授業を行う	2前	60	4	△	○		○	○			
	○		英語検定対策(準2)ⅡA *G	レベル別クラスにて「日本英語検定協会主催実用英語技能検定」の準2級取得のための対策授業を行う	2前	60	4	△	○		○	○			
	○		英語検定対策(TOEIC)ⅡB *H	レベル別クラスにてTOEICの高スコア取得のための対策授業を行う	2後	60	4	△	○		○	○			
	○		英語検定対策(2級)ⅡB *H	レベル別クラスにて「日本英語検定協会主催実用英語技能検定」の2級取得のための対策授業を行う	2前	60	4	△	○		○	○			
	○		英語検定対策(準2)ⅡB *H	レベル別クラスにて「日本英語検定協会主催実用英語技能検定」の準2級取得のための対策授業を行う	2前	60	4	△	○		○	○			
	○		通訳入門 *I	通訳の際必要となる高度な英語運用能力や日本語での説得力ある話法を身につける。また、話し手の要点と考えを正確かつ迅速に把握する能力を身につける	2前	30	2	△	○		○	○			
	○		総合英語ⅡA *I	英語のビジネス文書やニュースの記事を題材として、様々なタスクを通して英語の4技能(読む・聞く・話す・書く)を総合的に身につける	2前	30	2	△	○		○	○			
	○		総合英語ⅡB	ニュースに使われる語彙やフレーズを学び、時事英語や日常会話よりも早い英語に慣れ、より広い範囲の英語への適応力の養成を目指す	2後	30	2	△	○		○	○			
	○		Intensive Writing	企業で日常的に使用する英語のビジネス文書(計画書や企画書、報告書、履歴書、電子メールなど)の作成、および英語による海外取引全般に関する内容が理解できる	2後	30	2	△	○		○		○		
	○		マーケティング	企業の「売る」ための仕組みや企業のさまざまなマーケティング戦略について学ぶ	2後	30	2	△	○		○		○	○	
	○		プロジェクトベースドラーニング	ホテルや航空会社における実務例をベースに、現在のトレンドを踏まえてグループワークでプロジェクトを立ち上げ、内容のプレゼンテーションを行う	2後	15	1	△	○		○		○	○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		韓国語ⅡA ※J	韓国語ⅠA,Bで習得した語彙や文法知識をもとに、会話練習を積むことでさらに運用力を高める	2前	30	2	△	○		○			○	
	○		中国語ⅡA ※J	中国語ⅠA,Bで習得した語彙や分法知識をもとに、会話練習を積むことでさらに運用力を高める	2前	30	2	△	○		○			○	
	○		韓国語ⅡB *K	韓国語ⅠA,Bで習得した語彙や文法知識をもとに、会話練習を積むことでさらに運用力を高める	2後	30	2	△	○		○			○	
	○		中国語ⅡB *K	中国語ⅠA,Bで習得した語彙や分法知識をもとに、会話練習を積むことでさらに運用力を高める	2後	30	2	△	○		○			○	
	○		観光業界実務 *L	ホテル、トラベル、航空の各業界の業務について実践を交え、より具体的に学ぶ	2前	30	2	△	○		○			○	
	○		商業簿記Ⅱ *L	商業簿記Ⅰで学習したことを元に、「日本商工会議所主催簿記能力検定」の3級合格を目指す	2前	30	2	△	○		○			○	
○			一般教養ⅡA	時事教養や基本的教養を基に、SPI試験、適性試験などの問題に対応できるようになる	2前	30	2	○			○			○	
○			一般教養ⅡB	時事教養や基本的教養を基に、SPI試験、適性試験などの問題に対応できるようになる	2後	15	1	○			○			○	
○			ビジネス実務	名刺の渡し方やお茶出しなどの、社会人として求められるマナーを実践的に身に付ける	2後	30	2	△	○		○			○	
○			GCBⅡ	著名人や偉人の人生や教訓を通して、「志」を学ぶ	2前	15	1	○	△		○			○	
○			社会教養ⅡA	会社訪問や面接試験を受ける際の事前準備、訪問・面接試験後の振り返りと反省をし、就職試験に向けての準備を行う	2前	45	3	△	○		○			○	
○			社会教養ⅡB	比較的身近な話題に関するインタラクティブディベートの活動を通して、批判的思考を身につけ、発信力や傾聴の姿勢を育てる。裁判所見学、博物館見学などのアクティブラーニングを通して、社会文化的な教養を身につける	2後	30	2	△	○		○			○	
合計			56科目		2370単位時間 (155 単位)										

選択必修科目について

*A、B、C、D、G、H、I、J、K、Lの中から各1科目選択する

*Eもしくは*Fの科目を選択する

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
各学年における当該学科の指定科目をすべて履修・修得していること。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週